

八熊小学校花育 27年度 11月7日～18日

## 「子どもたちに花を教えて教えられたこと」

栗田薫夫

いよいよ今年の花育のメイン、フラワーアレンジの教室が始まる。今日11月7日(土)は授業参観を兼ねて3時間3クラスを行う。「ふれあい」「3年1組」「3年2組」の3クラス。

父兄の方々がそれぞれお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、ご家族、誰もが自分の子どもが一番上手に生けていると思っていたりして？その中で一人二人知り合いに出会う。彼らも普段見られない顔をしている。

家族で花育、これこそ花の持っている力。子どもたちは花とふれ合うと普段かくされていた素直な心を開花させ、やさしくおだやかになる。その気持ちが家族に伝わり教室の中は楽しい会話とやさしい時間が充満する。教えている私たちまで楽しくなってくる。

注意点が一つ。普段使っている子どもたちの工作用のハサミでも、花を切る経験は今までなかったはず。手元に気をつけるように！



最後に子どもたちから花についての質問を受けた。

Q1. 花はどうして黄色や赤やいろんなきれいな色をしているのですか？

A これにはハタと困った。どうしてって言っても花に聞いてみなければ分らないが、そこで終っては講師の名折れ、何色もある色ではあっても、花によっては無い色もあるんだよと答え、その例としてバラとかカーネーションにはブルーの色は無い事。そのブルーのバラをサントリーが作ったこと、アプローズと言う名前でたいへん高価な事を教えた。よくよく考えてみれば目のない花がきれいな色をどうして分るのだろう？子どもは時々、大人が素通りしている根源的な疑問を持つものだ。

Q 2. 花の種類はどれぐらいあるんですか？

A この質問にも困った。花の種類は無限とは言わないけれど人間によってどんどん新種が開発されていて、バラは何千種もあると言う答えで勘弁してもらった。

Q 3. おしべの花粉をめしべに受粉させるのは虫だけ？

A 虫以外には風であったり、時には人間であったりなど等。

さらにいっぱい手を上げる子どもたち。花の事、自然の事にすごく関心を持っている事がよく分った。今回は時間がなくてこんな程度で花育の終わりとした。子どもたちは満足したのだろうか？

今日はそれぞれの家庭で花について会話が弾むのでは。私たちも花を通じて今日一つ良い事をしたのかな。

11月17日、今日は1年生の3クラスに花育を行った。名花協中川支部の私たち3人と愛知名港花き地方卸売事業協同組合の近藤局長、佐藤職員、岐阜園芸アカデミーの井上先生、名花協の桑原職員が朝8時に集合。今日の児童・先生86人分のコンポートにオアシスをセット、机の上に新聞紙を敷きコンポート・花材・持ち帰り袋を並べる。開始時間までに10月に皆で相談した、教え方、トーク例、花材説明、注意点についておさらいする。何はともあれハサミで怪我をしないよう、子どもたちが喜んでくれるよう心を配る。

何といっても1年生はかわいい。先生役の坂野さんの説明をよく聞いてその通り素直にやろうとしている。子どもと思ってなめてはいけない。以外に見本に忠実に花と花がぎっしり入ったお花畑が小さな空間に生まれる。それも良く見ると一人一人違う。まん中に真っ赤な大輪のカーネーションが入りその周りにピンクのSPカーネーション、その外側にもう一回りグリーンのSP菊が同心円状にきれいに生けられたもの。赤を中心に片側にSPカーネーション、反対側にグリーンのSP菊と、はからずもグルーピングして生ける子など、なんとも楽しい花がそれぞれの個性を表わしている。こんな生け方、誰も教えてはいないのに。



昨日の(11月16日)の6年生、4年生の教室とは雰囲気まったく違う。



子どもは子どもなのだけれど少し自我に目覚め、自己を主張しだしている。先生と児童の間にもそれぞれ違った関係が垣間見られた。楽しく朗らかな教室、ちよっときゅうくつで統制的なクラス、一人だけ周りにとけこめない子。こんな小さな子の心にも悲しみが見える。花の力でこの子たちの心をとかしてあげたい。さあ明日は最後の花育、どんな子どもたちに出会えるんだろう。

最後の花育の日を迎えた。今日は2年1組と5年1組、2組の3クラス、朝から少し空模様がおかしい。天気予報では一日傘マーク、今のところ雨は降ってはいない。子どもたちがアレンジを持って帰る時が心配だ。

9:45～ 2時間目から始まる。だんだん皆さん慣れて来てコンポートや花材の準備も手際が良い。今日は先生を鈴木さん別所さん伊東さんの順に3人が務める。鈴木さん少し心配そうなので鬼頭さんをフォローに付けて始める。それぞれが自分の言葉と経験でせいっぱい子どもたちに分るように教える。熱心に聞いている子、自分の作業に集中して周りの言葉が入ってこない子、花を生ける順に花材が変わるたびに、だんだん出来上がっていくのが楽しそう。教室の雰囲気が波がひいたり満ちたりするように、子どもたちが騒がしかったり静かに集中したりと刻々と子どもたちの花時間が過ぎて行く。私たち補佐役が分からなそうにしている子を見つけてはアドバイス。でも実際に生けるのは子どもたちで私たちは少し説明し切り方さし方を教えてあげるが、あくまでもフォローに徹する。時間がおしてきて進みが遅い子だけに最後は手伝ってあげる。

2年の「町たんけん」に来てくれた子どもたちに、その時の事を話したかったけれど、時間がなくて残念。バラの話や「いのうえしおん」君にシオンの写真を見せてあげた事。それぞれの誕生日の花と花言葉。特にブルーのバラ、サントリーの開発した「アプローズ」とその香水はみんなの印象に残ったようだ。カーネーションの花の長持ちする見分け方など、又いつでも菊花園に来てください。



いろいろな事を考えながら3時間が過ぎ、無事に花育のメインであるアレンジ教室が終わりホッと一息。どこでもいつでも花と子どもたちは良い友達でいてほしいなと思った。

今回の花育に協力して下さった多くの方々、八熊小学校の先生方、たいへんお疲れ様でした。良い機会を頂きありがとうございました。残り3ヶ月「教室の花飾り」と全児童への「花配り」で八熊小学校へ来る事を、今から楽しみにしている。

